

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 長谷川 奈々子

論 文 題 目

ケアにおける尊厳の概念統合：

施設で暮らす高齢者のインタビューと文献レビューより

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 浅野 みどり

名古屋大学准教授 湊田 英津子

名古屋大学教授 太田 勝正

論文審査の結果の要旨

世界的に高齢化が進み、高齢者施設ケアに対する需要も高まる中で、高齢者施設入居者の尊厳を守り、尊厳あるケアを提供することは簡単なことではない。ケア提供者は十分な環境がない中で尊厳あるケアを提供するためには大きな苦勞を伴い、尊厳を損なうケアしかできないときは職員自身の尊厳や健康も脅かされる。入居者だけでなく職員を守るためにも、できる限り尊厳を文脈化・可視化することが必要である。

そこで本研究では、高齢者施設における尊厳あるケアの実践につながることを目的とし、概念統合アプローチを用いた尊厳の概念の明確化を行った。データ収集は、高齢者施設入居者に対する尊厳に関する経験についての解釈学的現象学を用いたインタビュー、および、高齢者施設ケアにおける尊厳についての知見を集約するためのマトリックス方式による文献レビューを併せて行った。計 27 回のインタビューからは 1,728 コードが得られ、PubMed、CINAHL、Web of Science を用いた文献レビューでは、3,716 件より選定された 28 文献のデータが得られた。

本研究の新知見と意義を要約すると以下の通りである。

1. インタビューの結果と文献レビューによる 28 文献の論文を用いた概念統合により、ケアにおける尊厳の特徴として 5 つのテーマが生成された：【他者におかされることのない個人の尊厳】、【狭義の尊厳あるケア】、【職員側の要素】、【家族・友人・社会・他の入居者との関係における尊厳】、【介護施設・介護制度による尊厳】。

2. 本研究の概念統合アプローチによるプロセスより、テーマ間の相互の関係性を示す 2 次元の「高齢者施設のケアにおける尊厳の概念マトリックス」が得られた。それぞれの尊厳の特徴による位置関係が図示されることで、看護の臨床・研究・教育において、現在注目されている尊厳や不足している視点などを視覚的に捉えられるようになり、看護実践に近づくための尊厳の議論の活性化につながると期待される。

3. 現在までに報告されている尊厳の定義の多くが 1 対 1 のケアを想定したものであったが、今後はチーム、施設レベルでの尊厳あるケアのさらなる探求が望まれ、そうした視点で新しい制度やルールを定めていく必要があることが示された。

提示された概念の特徴と概念マトリックスは、個人が主観的に感じるものであると同時に、他者との相互関係にも強く影響されるという尊厳の特徴と、尊厳あるケアを臨床実践に根付かせるためのスタッフ、チーム、組織、そして介護システムの役割を明確化するという本研究のねらいを反映している。そして本研究は入居者と職員、それらから広がる社会や介護制度の枠組みを示し、その中にケアにおける尊厳の要素を示すことができた。

これらの研究成果は、看護倫理の国際専門誌である *Nursing Ethics* (IF=1.957; 5-Year IF=2.530) に掲載された。以上の理由により、本研究は博士(看護学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	長谷川 奈々子
試験担当者	主査 名古屋大学教授		名古屋大学准教授	名古屋大学教授
	浅野 みどり		湊田 英津子	 太田 勝正 
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の高齢者施設の特徴について 2. 研究方法として用いた解釈学的現象論の強みと弱みについて 3. システマティックレビューの基本的手順について 4. インタビュー調査におけるデータの飽和についての考え方について 5. 本研究における対象施設の選定の妥当性について 6. 高齢者が暮らす施設、環境によって影響を受ける尊厳の要素について 7. 高齢者の認知機能および疾患をより正確に把握するための方法について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				